一刀領談

下條正男

石破首相と戦後80年談話

「盗人に追い銭」は愚か

先月末、新聞各紙は石破茂首相が戦後80年の「首相談話」の発表を見送り、先の大戦を検証するための有識者会議を設置すると報じた。過去の検証に重きを置く石破氏の発想は、韓国大統領を罷免された尹錫悦（ユンソクヨル）氏の対極に位置している。

■反日感情を利用

「（日本が）100年前の歴史のためにひざまずかなければならないという考えは受け入れられない」。尹氏は2023年4月、訪米を前に米紙ワシントン・ポストのインタビューにこう答え、過去よりも日韓関係の今を重要視した。

現に尹氏の政治的信条は日韓の関係改善を促し、韓国内の反日感情も確実に薄れたが、一方で尹氏は、対抗する動きに危機感を抱いていたようだ。

昨年12月に「非常戒厳」を宣布した尹氏は弾劾審判の最終弁論で「巨大野党の暴走」や「北朝鮮スパイの暗躍」など韓国が今、亡国的危機にあると主張。「私は国家と国民のために戒厳令を決断」したと述べた。背景にあったのが、反日感情の政治的利用だ。

革新系最大野党の「共に民主党」代表の李在明（イジェミョン）氏は「独島（トクト）（竹島）の領有権を主張して挑発し、歴史問題を謝罪していない」と日本を「敵性国家」と断じ、尹氏による対日融和策を「親日屈辱外交」と指摘。尹政権を「親日売国政権」と非難する際、国民の反日感情をあおった。反日感情は日韓関係に限らず、国内政治でも利用されていたのだ。

それが今回の非常戒厳を通じて、従軍慰安婦問題や福島第1原発処理水問題でも北朝鮮からの指令を受けた民主労働組合総連盟（民主労総）や一部国会議員が反日感情を利用し、日韓の離間を謀っていた事実が明らかにされたのである。韓国の20～30代の若者が必死に尹氏の「弾劾反対」を叫んだ理由がここにある。

■金丸訪朝が遠因

その頃、閣議決定による戦後80年の「首相談話」策定を検討していた石破首相は、国内外で歴史認識を巡る論争が再燃する事態を回避するため見送りを決定。代わりに先の大戦の検証に着手するという。

日本政府はこれまでも戦後50年の「村山談話」、60年の「小泉談話」、70年の「安倍談話」を発表している。村山談話は慰安婦問題で日韓関係が最悪の時に出された談話だったが、遠因は自民党の金丸信氏らが行った1990年の訪朝にあった。北朝鮮で戦後補償に言及したことで、当時の韓国政府も解決済みとしていた慰安婦問題が政治問題化したのである。

すると日本政府は、事実関係を明らかにすることなく「河野談話」を発表し、軍部の関与といった言質をとられたのである。それは当時、韓国では日本兵を相手としていたのは自尊心が許さないとして、強制されたとしてほしいという声に応えるものだった。

小泉談話も事情は似ていた。島根県議会が「竹島の日」条例を制定しようとすると妨害した小泉政権だったが、「竹島の日」条例が成立すると「竹島は日本固有の領土」「韓国が不法占拠している」として、韓国側の反日感情をいたずらに刺激したのである。

村山談話と小泉談話を踏襲した安倍談話も、結果的には「100年前の歴史」に反省とおわびをしたのも同然で、弁解じみた空言を羅列しただけだった。

安倍談話が出た2015年は、竹島問題の解決を怠った小泉政権を見て、中国が尖閣諸島侵奪に動き、ロシアが北方領土問題を領土から歴史問題とし、侵略を正当化した時だった。

これは歴史的事実として、戦後の韓中口こそが「侵略国家」なのである。その侵略国家が日本を侵略国家と指弾し、それに首相談話で応じるのは「盗人に追い銭」である。

戦争の検証なら、軍部の暴走を許した当時の政党政治こそ対象にすべきだ。それは現在の政党政治も戦前と大差がないからだ。

＝随時掲載＝

歴代首相の戦後談話

戦後50年　村山談話

国策を誤り、植民地支配と侵略でアジア諸国の人々に多大な損害と苦痛を与えたとして、反省とおわびを表明

戦後60年　小泉談話

村山談話から「国策を誤り」の部分は消えたが、基本的に踏襲

戦後70年　安倍談話

歴代内閣の立場を紹介する形で「反省とおわび」に言及。「戦争に関わりのない世代に、謝罪を続ける宿命を背負わせてはならない」と記述

しもじょう・まさお　長野県出身。国学院大大学院博士課程修了。1999年から拓殖大教授を務め、2021年3月末で退官した。島根県の第5期竹島問題研究会の座長を務める竹島研究の第一人者で、23年3月末まで本紙客員論説委員を務めた。拓殖大名誉教授。74歳。